第29回 労文協リレー講座

2017年度

● 期　　間	**2017年10月～2018年3月**
● 時　　間	**18:00～20:00**（講演1時間30分他質疑応答）
● 会　　場	**北海道自治労会館**（札幌市北区北6条西7丁目）東向き
● 受 講 料	6回券 3,000円・当日受講 700円
● 申 込 先	労文協または自治労会館事務局

～テーマと講師～

1回目	10月18日(水)	岐路に立つ日本の対ロシア外交：北方領土問題を中心に	岩下　明裕（北大スラブ・ユーラシア研究センター教授）
2回目	11月21日(火)	労働基準法を『短歌』に翻訳！――学生たちのアルバイト／労働短歌	田中　綾（北海学園大学教授、三浦綾子記念文学館館長）
3回目	12月20日(水)	北海道の文学研究半世紀	神谷　忠孝（北海道大学名誉教授、労文協会長）
4回目	1月16日(火)	環境と交流からみたアイヌの歴史	瀬川　拓郎（旭川市博物館館長、「アイヌ学入門」著者）
5回目	2月21日(水)	たまには地学のお話を：身近な地質の楽しみ方と私たちの地球観の移り変わり	前田仁一郎（NPO法人北海道総合地質学研究センター理事長）
6回目	3月20日(火)	1950年代の繊維女性労働者と生活記録運動	辻　智子（北海道大学大学院教育学研究院准教授）

主催

(一社) 北海道労働文化協会／札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろうビル（TEL・FAX 011－261－0020）
(一財) 北海道自治労会館／札幌市北区北6条西7丁目（TEL 011－747－1457）

受講申込書

お申込みは、FAX：011－261－0020　E-mail：roubunkyou@ace.ocn.ne.jp

受講希望の日程に☑をしてください。

□1回目　10/18(水)　□2回目　11/21(火)　□3回目　12/20(水)
□4回目　1/16(火)　□5回目　2/21(水)　□6回目　3/20(火)

氏　名	
住　所（連絡先）〒	
TEL	FAX
E-mail	

当日受講も可能ですが、資料準備の都合上事前にお申込みくださいますようお願いいたします。
また、講座変更時等の連絡先となりますのでご記入をお願いいたします。

第29回労文協リレー講座（2017年度）
テーマと内容

2017年10月18日(水)　岩下　明裕

「岐路に立つ日本の対ロシア外交：
北方領土問題を中心に」

2016年12月の日露首脳会談は領土問題解決への進展が期待されたが、「返還」に向けた言及も一切なく成果は乏しい。だが官邸を始め、一部メディアや識者はこれを「成功」と称する。その後の現実は、元島民の墓参、鳴り物入りの共同経済活動に向けた動きも「空回り」の様相が濃い。本講演では日本の対露外交の知られざる現状を分析する。

2017年11月21日(火)　田中　綾

「労働基準法を『短歌』に翻訳！
── 学生たちのアルバイト／労働短歌」

「ブラックバイト」に悩まされる若者たちがいます。けれどもそれは、かれらが学校でワークルール（労働基準法など）をきちんと教わっていないという事情もありそうです。そこで、学生たちと一緒に、労働基準法を短歌（五七五七七）形式に「翻訳」してみました。加えて、実際のアルバイト現場の肉声も、短歌でお伝えします。

2017年12月20日(水)　神谷　忠孝

「北海道の文学研究半世紀」

「北海道文学」と「北海道の文学」をめぐる論議を整理しながら、多くの文学者を輩出した意味を考察する。植民地主義とはそこに住む人々の思考を停止することだが、そのことに気づいた若者たちがどのように人間の尊厳回復を文学に表象しようとしたか。

2018年1月16日(火)　瀬川　拓郎

「環境と交流からみたアイヌの歴史」

アイヌの人びとは、孤立した世界のなかで、縄文時代から変わらない自然と一体になった暮らしを送ってきたと考えられてきました。しかし近年の研究では、かれらが本州や北東アジアの人びとと深く交流し、自然との関係も大きく変化してきたことが明らかになってきています。「他者」と「生態系」の二つの視点からアイヌの歴史を考えてみたいとおもいます。

2018年2月21日(水)　前田仁一郎

「たまには地学のお話を：身近な地質の
楽しみ方と私たちの地球観の移り変わり」

都会はアスファルトで覆われていますから、手に触れて地球を実感することは容易ではありません。地震や火山噴火でもない限り、地球を意識することも無く、いわば今のまま存在し続けるのが当然の、あたかも「空気」のような存在であるかも知れません。しかし、地球は地球の理屈で進化し、もちろん現在も活発に生きており、決して我々人間の事情を忖度してはくれません。今回の講座では、そんな地球の上で生きていくために、そして地球を身近に楽しむために少しでも役に立つような簡単な地学をお話しし、旧約聖書から、地球収縮説や膨張説、大陸移動説を経てプレートテクトニクスにいたる我々の地球観の変遷を簡単に辿って見たいと思います。

2018年3月20日(火)　辻　智子

「1950年代の繊維女性労働者と
生活記録運動」

1950年代、人々が自らの体験や生活を綴る集団的な取り組みが広がり、繊維産業では労働組合が呼びかけて文集や機関誌づくりなどが活発に行われた。生活記録運動と呼ばれたこれらの活動の中で残された記録を読みながら、戦後の繊維女性労働者の足跡をたどるとともに、「労働文化」という言葉に込められた思いについて当時の状況とあわせて考えてみたい。